

「同調圧力」に負けるな

校長 鈴木 隆志

次の五つの言葉の中で、どの言葉を一番「悪口」だと感じますか？ 一つ選んでください。

- ①まじめだね ②おとなしいね ③天然だね ④個性的だね ⑤マイペースだね

これは、静岡大学教育学部とLINE株式会社による「小中学生の情報モラル教材開発」のための共同研究の中にある設問です。中学生による回答で最も多いのは、「個性的だね」なのだそう。中学生は、「個性的」を悪口と捉えているのです。小学校でも中学校でも、一人一人の個性を認め、個性を伸ばすことを大切にしています。それなのに、子供たちは「個性的」を嫌がっています。どうしてなのでしょう。

「同調圧力」という言葉があります。集団の中で多数派に合わせることを強いる空気のことです。「みんながそう思っているのだから、あなたもそれに従え」という論理です。「KY」（空気が読めない）という流行語（平成19年）も、同調圧力の表れです。子供の世界でも大人の世界でも、同調圧力を感じることはありませんか。誰しも、他者に対して自分と同じものを見出したときは、心地よい安定感を感じるものでしょう。それが、仲良し同士、好きな者同士という関係につながって、一層同調圧力を強めていきます。そして、仲間外れを恐れて、空気を読みながら話を合わせ、「好きな子グループ」に身を置くようになるのです。中学生が「個性的」を悪口と捉えているのは、同調圧力の影響が強いからだと言えます。個性的であることを避けて生きていくのは、何とも悲しいことです。

自分を安全な場所に置くことによって、自分と違う者を排除することにつながってしまうことは、とても危険なことです。いじめや仲間外れは、許しがたい同調圧力なのです。いじめをなくすには、違いを認めることが何よりも大切です。自分との違い、自分とのズレ、異質なモノ、異文化、違う価値観、そういったものを全て認めて、「みんな違ってみんないい 認め合えればもっといい」という思いにならなければならないのです。光八小は、光っ子たち一人一人の個性を認め、個性を伸ばし、いじめ、不登校、「学級の荒れ」ゼロの学校を目指しています。

音楽の世界では、和音を表すコード（chord）というものがあります。ドミソの和音は、「C」のコードです。このドミソに「レ」を加えたら、どうなるでしょうか。「レ」の音は9度の音なので、「ナインス」の和音・ドレミソになります。このナインス和音が妙により味を出すのです。ドミソという“同調圧力”にもめげずに、異質な「レ」が入ることで、違った空気が流れます。私のこだわりとしては、「レ」の音も大切だと考えるのです。私自身がナインスの音になりたいと思っています。

同調圧力に負けてはいけません。同調圧力を許していてもだめです。冒頭の設問に戻ります。まじめだって、おとなしくたって、天然だって、個性的だって、マイペースだって、皆よいのです。どれも悪口ではないはず。見方を変えれば、まじめ＝公明正大・一生懸命・誠実、おとなしい＝沈思熟考、天然＝天真爛漫、個性的＝自立自主・創意工夫、マイペース＝根気強さ・泰然自若というように、どれも長所となるのです。